

「時間に追われるのではなく、時間を追う生き方をしよう」ということがよく言われます。

私たちの周囲にも、時間を追いかけて仕事をこなし、会合などでも余裕を持って会場に入ることを習慣にしている人がいます。逆に、時間に追われ、口を開けば「忙しい…」と嘆き、会合ではいつも遅刻という人もいます。

倫理運動の創始者・丸山敏雄は、「出足はやく引き足をはやく」という言葉を遺し、「これは世渡りの秘法である」と説きました。

出足とは、朝の目覚めに始まり、家を出る、職場に出社する、会合や人との待ち合わせに出向くなど、物事の出発を指します。引き足は、物事の締めくくり、仕事の引き上げぶりなどを指します。

警察庁 Bで初代内閣安全保障室長を務めた佐々淳行氏は、日常においては五分前行動を徹底し、要人の警護などでは更に早め早めに動いて確認準備を行なったといっています。

そうした行動が、決して失敗が許されない任務の中で部下たちに緊張感をもたらし、結果として円滑な任務の遂行に至ったのでしよう。「段取り八分」といわれるように、事の始まる前の準備と取り掛かり方が仕事の成否を握っているのです。

出足を良くするには、まず朝起きです。目が覚めたらサツと起きる朝起きに徹するのです。さあ、明日から早く起きるぞと心に決め、余計な心配をせずにサツと寝る。より良い一日のスタートを切れば、誰でも心地よいものです。家を出る際にも、爽やかにサツと歯切れよく出発することが大切です。忘れ物で戻ったり、いらぬ小言や不平をブツブツ漏

出足、引き足に留意し リーダー力を磨く



絵・わたなべじゅんじ

らすようでは、朝のスタートとして醜いといわざるを得ません。「行ってきます！」と爽やかに家をあとにしたいものです。

仕事の終わりや物事の締めくくりも、一日の流れの中で非常に大切です。業務・用件が済んだならば、サツと引き上げる、区切りをつける。これが次のより良いスタートにつながるのです。

更には「飛ぶ鳥跡を濁さず」といわれるように、一日仕事に励んだ職場や精一杯働いた現場の始末をつけ、使った道具に感謝と愛情のこもった挨拶をしているでしょうか。場に対する礼を尽くしているでしょうか。併せて、共に働き仕事を助けてくれた方々や、自分が出張中であれば、留守を守ってくれた社員や家族にきちんと心を向けて、今日一日の感謝をすることも大切です。

「時を守り、場を清め、礼を尽くす」といわれます。どれも当たり前のことではありませんが、職場の再建や活性化の決め手として、よく話題に上る言葉です。出足と引き足を整えていくことは、この三つを具現化することにつながるのでしよう。

変化興亡の激しい現代にあつて、眼前の状況がめまぐるしく動いていくと、自然と浮き足立ってしまうことも少なくないでしょう。そのような時こそ、リーダーたる経営者がしつかりと地に足をつけ、腰を据えて事に当たることが大切です。

それが自身の力に磨きをかけ、存分に手腕を振るう土台になるからです。鋭い出足、鮮やかな引き足で、リーダー力に磨きをかけていきましょう。